

サルモニー報告の牙製婦人像の「再発見」

高橋 健*

はじめに

昨年度の本紀要掲載の牙製婦人像についての考察の中で（高橋 2021）、1950 年のサルモニー論文に掲載された「南モンゴリア出土」とされる牙製像についても触れていた。不明だったこの資料の所在が判明したため、ここで報告しておきたい。

経緯

問題の彫像は、1950 年に A. サルモニーによって紹介され（Salmony 1950）、Southern Mongolia（内モン古）出土と推測されたもので、我が国ではオホーツク文化の牙製婦人像との類似から注目されてきた（大塚 1968、北構 1974 など）。本資料については、サルモニー論文の写真と（図 1a）、シェル論文掲載のスケッチ（図 1b）（Шеп 1966）があるのみだった。筆者はかねてこの資料を実見したいと思い探索していたが、昨年秋、米国ブリンマー大学（Bryn Mawr College）のオンラインデータベース上でこの資料を偶然見つけることができた（図 2）。

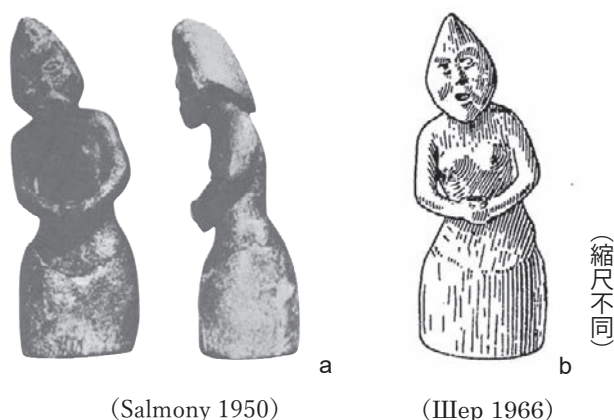


図 1 過去の報告

資料

この資料は、ブル夫妻（Richard C. Bull and Josephine Rothermel Bull）によって 1986 年に寄贈されたものである。ブル氏は東洋美術のコレクターであり、サルモニー教授とも交流があった（Bull 1965）。サルモニー論文ではフォック氏（Dirk Foch）蔵とされていたから、1950 年以降のいずれかの段階で入手したものだろう。

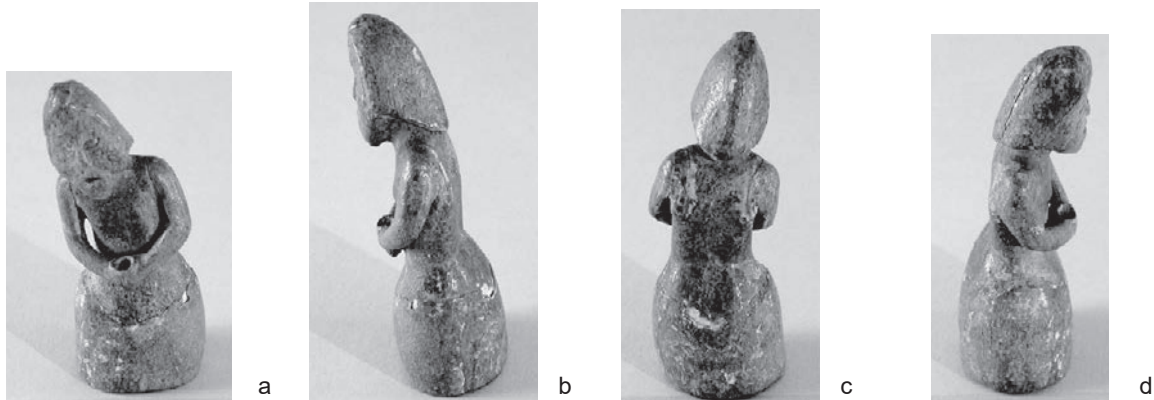
資料はほぼ完形であるが、表面は一部剥落している。補修・復元部分があるかどうかについては、写真では判断が難しい。基部のパニエ状の部分には素材のセメント質が残っている。両肩に縦の筋が入るが、これも象牙質とセメント質の変わり目だろうか。色調は全体に鮎色で、胴部は赤味を帯びている。また剥落部分は白色を呈している。資料カードでは高さ 9.3 cm とされており、サルモニーによる $3\frac{5}{8}$ インチという大きさと一致する。

全体に右斜め前に傾いたポーズをとり、マッコウクジラの牙製として問題なさそうである。頭は菱形の頭巾をかぶったような形である。顔は目・鼻・口が表現されている。やや吊り目でアーモンド形の目は沈線で描かれ、鼻は棒状に隆起し、口はやや深く刻まれている。両手を腰の前で合わせており、容器を持っているように見える。手指の表現はみられない。胸のふくらみはわずかである。後頭部や胴部背面側は無文であり、髪型ないしかぶり物、衣類などの表現はみられない。

おわりに

本資料は、その特徴的な頭部形態や容器を持つポーズの共通性に注目して、ユーラシアの石人像や

*TAKAHASHI Ken 横浜ユーラシア文化館主任学芸員



(TriArte: Art & Artifacts Database)

図2 再発見された彫像

モンゴルの浮彫にみられるモチーフとの関連が考えられてきた資料である。一方、筆者はこの資料を「オホーツク文化の牙製婦人像そのもの」だと考えた。全体的にみて、オホーツク文化の牙製婦人像と強い類似性がみられることは間違いないが、容器を持つ類例がこれまで知られていないのも事実である。これ以上は実物資料を観察しての検討に委ねたいが、まずは資料の「再発見」を報告した次第である。

謝辞

資料の写真掲載にあたっては、ブリンマー大学(Bryn Mawr College)のMarianne Weldon氏にお世話になった。

【引用・参考文献】(年代順)

Salmony, A. 1950

Notes on a "Kamennaya Baba." *Artibus Asiae*. 13:4-16

Bull, R. C. 1965

The metamorphosis of one collector. *Expedition*. 7(3): 39-47

Шер, Я. А. 1966

Каменные Изваяния Семиречья

大塚和義 1968「オホーツク文化の偶像・動物意匠遺物」『物質文化』11:21-32

北構保男 1974「牙製婦人像について」『オンネモト貝塚』、北地文化研究会、pp.169-199

高橋 健 2021「オホーツク文化の牙製婦人像」『横浜ユー

ラシア文化館紀要』9:14-38

TriArte: Art & Artifacts Database

<https://triarte.brynmawr.edu/objects-1/info/156465>

付記

昨年の論文において、サルモニー論文の発行年を誤って1940年としていた(高橋同前)。筆者の不注意による誤りであり、次の通り訂正する。

p.17 左 31 行：(誤) 1940 年 (正) 1950 年

p.17 左 32 行、p.20 表 1・6 行、p.25 左 33 行、p.28 右 28 行、
p.35 左 19 行、p.36 左 13 行、p.37 右 14 行：

(誤) Salmony 1940 (正) Salmony 1950

p.17 右 6 行：

(誤) この論文が発表された1940年は米村・北構論文が発表された同じ年であるから、日本国内の研究者にも牙製婦人像はあまり知られていなかった。

(正) この論文が発表された1950年の段階では坪井による報告と米村・北構論文が知られている程度だったから、

横浜ユーラシア文化館紀要 第10号

Bulletin of the Yokohama Museum of EurAsian Cultures No. 10

2022年3月31日発行

編集 横浜ユーラシア文化館

〒231-0021 横浜市中区日本大通12

Tel.045-663-2424 Fax.045-663-2453

www.eurasia.city.yokohama.jp/

発行 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団

印刷製本 アンクベル・ジャパン株式会社

Edited by the Yokohama Museum of EurAsian Cultures

12 Nihon-odori, Naka-ku, Yokohama, Japan

Published by the Yokohama Historical Foundation

Printed in Japan by ANQBELL JAPAN CO., LTD.

©Yokohama Museum of EurAsian Cultures 2021

ISSN 2187-7734